



ふたばだより
～1年を終えるにあたって～

「きゅうこんの中には」

甲子園二葉幼稚園

園長 美濃部 信

きゅうこんの中には 花がひめられ
さなざの中から いのち羽ばたく
寒い冬の中 春は目ざめる
その日 その時を ただ神が知る

これは、『こどもさんびか』135番にある「きゅうこんの中には」というさんびかです。明日年長の皆さんは卒園式を迎えられますが、そこで卒園児たちが歌ってくれます。とてもいい歌ですね。一度歌っているのを聞きましたが、とても素敵な歌声でした。ぜひ小学生になっても、中学生になっても、大人になっても歌ってほしいと思います。そうすると楽しかった幼稚園生活を思い出して、元気が出ると思います。年中や年少の皆さんもぜひ覚えて、歌い継いでいってほしいと願っています。

私は、子どもは花の種だと思っています。(ここではきゅうこんと言った方が良いかも)花の種は、肥料をやって、水をやればすぐに芽吹いて花が咲くというものではありません。花は咲かせたい人のペースでは咲かないので、待たなければならないのです。その咲く時期はみんな同じではないですが、かならず「きゅうこんの中には 花がひめられ」ていることも確かです。そこに何が秘められているのかは神さましか知らないことですが、私たちはきゅうこんの中から花が咲き始めることを信じて待つのです。どんな花の種も、時期を待てば必ず花を咲かせます。

私たちが生きる時代は「大人が待てない」と言われて久しいです。すぐに結果が必要だといろんなところであられるので、現代人は知らないうちに待つことが苦手になってしまいました。もちろんすぐに結果を求めなければならない場面はありますが、それを全てに当てはめしまうと苦しい思いをすることがあります。特にひとが育つ場面においてはなおさらではないでしょうか。「その日 その時を ただ神が知る」のですから、神さまが見るような長いスパンで見る眼を私たちも持ちたいものです。

さて、私は3年間園長を務めさせていただきました。皆様にはお支えいただき感謝いたします。子どもたち、保護者の皆様と出会えたことを嬉しく思います。甲子園二葉幼稚園は神様によってつくられた幼稚園です。大切な幼稚園をその時々に関わった人たちが支えてくださりここまで歩んできました。今後とも甲子園二葉幼稚園を覚え、ご支援賜りますようお願いいたします。

卒園をする子ども、進級する子ども、これからの歩みの上に神さまの恵みがあるようお祈りしています。